

公益社団法人 日本技術士会 愛知県支部 第 8 回例会（講演会）の報告

愛知県支部 社会貢献委員会の企業活動研究会が一年間に学習研究した成果を取り纏めて外部へ発表する講演会を開催した。その概要を報告する。

開催日：2016年11月19日（土）

会場：名古屋学院大学日比野学舎3階301教室

テーマ：エネルギー・環境・技術動向と企業活動

講演 1 「エネルギー問題の動向と展望を」

技術士（経営工学部門）野尻一男

日本の1次エネルギーの実態は再エネ・石炭・原油・LNG・原子力があり、COP21(パリ協定)でCO₂発生量は30年に13年比26%削減目標を設定した。世界の温室効果ガスは増加の傾向にある。2030年のエネルギー電源構成の考え方では、安全性の確保・コスト低減・自給率の確保が大前提であると解説があった。



講演 2 「IoT と AI は技術の現場にどう影響するか」

技術士（経営工学部門）新美由香史

IoT とは何か？ 今、なぜ IoT・AI なのか？ 今、何が起きているのか？ ネットとリアルの相互乗り入れ、IoT・AI の技術史と現状などについて解説をされた。また、本来のユビキタスとは？ 人々の活動を支えるIoT および現在の主な活用事例について解説をされた。



講演 3 「技術不祥事その背景と構造を考える」

技術士（総合技術監理部門、金属部門）柴田素伸



VW（独）、三菱自工、スズキの3社はほぼ同じ時期に問題を起こした。それぞれの不祥事の内容や会社の事情、社会的背景などを分析し、熾烈な競争を勝ち抜く企業努力の負の側面を紹介。技術者592名のアンケートでは経営者の圧力や組織の壁による情報・連絡の不足等に悩む姿が浮き彫りにされた。国内外の不祥事の紹介やコーポレートガバナンス導入の背景や内容などを交え、分り易く解説された。

